

◆新実祥悟議員 それでは、議長に発言の許可をいただきましたので、順次一般質問をさせていただきます。

なお、本会議3日目となりますと私の質問が前の質問者の方と重複しておりまして、一部そういったことで割愛させていただく部分がありますので御容赦のほどお願いいたします。

では大きい1番、海のまち蒲郡の事業について、(1)海フェスタについて、ア、事業内容についてを順次お尋ねしていきます。

7月16日から7月31日まで開催される海フェスタの実行組織と開催地域について、まずお尋ねいたします。

◎大場昭佳建設部長 海フェスタ東三河の開催及び運営につきましては、海フェスタ東三河実行委員会が行い、事務局は豊橋市産業部みなと振興課内に置かれております。

実行委員会は、豊橋市長を会長としまして、豊橋市以外の東三河7市町村の首長を副会長、特別委員として愛知県副知事、東三河広域連合連合長、国土交通省中部運輸局長、国土交通省中部地方整備局長など、監事としましては豊橋、豊川及び蒲郡の商工会議所会頭、名誉顧問は大村愛知県知事が、顧問としては愛知県会議議長を初め8市町村及び東三河広域連合の議長と全国の港湾関係団体の会長及び理事長など、これに加えまして実行委員としましては、国、県の関係機関、各警察署、観光協会、商工会、港湾関係団体及び各種団体や企業の代表等で組織されているものでございます。

開催地域につきましては、ライフポートとよはしでの開会式を皮切りに、豊橋市神野地区の各岸壁を船舶の一般公開等のメイン会場とし、各種イベントのメイン会場としてはライフポートとよはしなどで開催されるとともに、体験乗船や参加体験型イベントにつきましては東三河全域の各所で開催されるものでございます。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 この期間中に秋篠宮両殿下もお見えになるというように伺っているところですが、全体的なイベントの内容と予定についてお尋ねいたします。

◎大場昭佳建設部長 海フェスタ東三河の全体イベントについてでございますが、豊橋市神野地区の岸壁をメイン会場として7月16日土曜日から31日日曜日までの期間中、各種イベントが開催されます。

海の総合展は、各関係機関による展示やセミナー・シンポジウムをポートインフォメーションセンターやライフポートとよはしで実施し、ライフポートとよはしでは、開催初日7月16日11時40分からオープニングセレモニーが開かれます。

各種船舶の一般公開につきましては、神野地区の岸壁会場で行われ、海上自衛隊の艦船「こんごう」、気象庁の海洋気象観測船「啓風丸」、深海調査研究船「かいいい」、海上保安庁の大型巡視船、帆船「海王丸」などが予定されております。また、三

谷水産高校の水産実習船「愛知丸」が7月23日、24日に一般公開を予定しており、帆船「みらいへ」につきましても7月31日に豊橋神野地区にて一般公開されます。

体験乗船につきましては、岸壁会場で行われる遊覧船「たつみ丸」港内クルーズ、伊勢湾フェリーサンセットクルーズや「みらいへ」による体験航海、いずれも事前申し込みが必要ですが、それ以外にも御津マリーナ、海陽ヨットハーバー及びラグナマリーナでも開催されます。

セミナー・シンポジウムやコンサートはライフポートとよはしをメインに豊橋市内各所で、グルメイベント及び参加・体験型イベントにつきましては東三河全域の各所で開催されます。

最近、見開き1枚のパンフレットがこちらのほうに届きました。本日はすけれども、議員の皆様方への連絡箱にパンフレットを入れましたのでごらんいただきたいと思えます。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 パンフレットはまだ見ていないところですが、豊橋神野地区の岸壁がメイン会場になっており、セミナー・シンポジウムはポートインフォメーションセンターやライフポートとよはしで実施すると、今、伺いました。

蒲郡市内のイベントとしては、会場予定についてお尋ねいたします。

◎大場昭佳建設部長 蒲郡市内のイベント会場の予定でございますが、7月18日海の日には、竹島水族館で磯の観察会を開催します。

そのほかとしましては、7月16日土曜日から18日海の日には、ラグナマリーナにて「三河湾ポートフェスタ2016」が日本マリン事業協会中部支部と海フェスタ東三河実行委員会の共催で、三河湾体験試乗会、小型ボート試乗会を実施することとしております。また、7月18日海の日には、海陽ヨットハーバーにて「海の日記念2016ヨット体験乗船会」が開催され、親子体験乗船やヨットの操縦方法を学ぶことができます。7月31日日曜日には、同じくラグナマリーナにて「楽 Sea 教室in東三河」が中部小型船安全協会主催で開催され、安全教室や安全パトロール艇への体験乗船をやっていただくこととしております。これら3件につきましては、いずれも事前の申し込みが必要で、参加料は無料でございます。

ほかに、ボートレース蒲郡を会場とした海フェスタ東三河の協賛事業を7月30日、31日に開催してまいります。イベント内容につきましては、現役ボートレーサーによるペアボート体験乗船や、海に関するイベントを実施してまいります。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 それでは、このイベントを通じてですが東三河全体の集客数はどの程度を見込んでいるか、伺います。

◎大場昭佳建設部長 海フェスタ東三河における全体の集客数につきましては、実行委員会としておおむね120万人程度を予定していると聞いております。これは、昨

年開催の海フェスタ熊本において、実行委員会によるイベントが106万人、その他関連イベントが48万人の合計154万人となっており、予算規模が今回約8割というところから推計したものであるとのことでございます。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 では次に、イ、事業の狙いについて。

海フェスタの事業の狙いや、これを通じて全国に発信していくものをお尋ねいたします。

◎大場昭佳建設部長 東三河地域は太平洋や三河湾、奥三河の山々に囲まれ、豊かな自然や歴史を背景に個性あふれる文化、海の幸・山の幸などの豊富な食、ものづくりの技術といった地域資源を育んできました。

この地域の海の玄関口である三河港は、自動車産業を中心とするものづくりを支える物流拠点であり、国内はもとより世界の扉として、地域の経済、産業の発展に大きな役割を果たしてきました。

また、母なる海である三河湾には、奥三河を水源として地域をつなげる豊川が注ぎ、農工商に多くの恩恵をもたらすとともに、持続可能な地域づくりにおいて何物にもかえがたい財産であります。

この大切な海、川、港についての魅力や重要性を次の世代へつなげる機会とし、三河港の活性化、東三河地域全体の連携や発展に寄与するとともに、多彩で豊かな地域資源やすばらしい観光の魅力を全国に発信し、交流人口の獲得、拡大へ向かう大きな契機とするものでございます。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 ありがとうございます。

東三河広域連合ができて、初めての東三河での大きなイベントだというようにこの海フェスタ、承知しております。ぜひ、成功ではなくて、大成功していただくことを御祈念いたします。

では、(2)国際港蒲郡の開港50周年についてお尋ねいたします。

本日の中日新聞でしたが、この開港50周年の広告を市長が出されておりました。大変いいことだなというように思っております。

では、順次お尋ねします。

アとして、蒲郡港の生い立ちについて、まずお尋ねいたします。

◎大場昭佳建設部長 蒲郡港は1635年、寛永12年に犬飼一現在の蒲郡港でございます。大浜、鷺塚、平坂、御馬の三河5港の一つとして開かれ、徳川時代には年貢米の搬入により栄え、その後、木材、石材の輸送が頻繁になり、大正末からは石炭の移入が頻繁となりました。そして、昭和5年に内務省指定港湾となりました。昭和23年7月に港湾法により蒲郡港の港域が指定されてから現在の蒲郡港となり、昭和29年9月に蒲郡港は県管理港となりました。以降、昭和34年にかけて各種施設の

整備がされましたが、同年9月の伊勢湾台風により大きな被害を受けました。この災害復旧とあわせて修築工事に着手し、この工事中の昭和37年5月に愛知県は西浦、蒲郡、豊橋、田原の4港を統合して地方港湾三河港と改め、これにより蒲郡港は三河港蒲郡地区として港湾整備が進められることになり、昭和39年3月に中央埠頭が完成し、マイナス7.5メートル岸壁2バースが供用開始され、東三河地方の開港拠点となり港勢は拡大しました。同年4月に重要港湾に昇格し、翌40年7月には蒲郡港の港域拡大が決定し、昭和41年4月には待望の開港指定が実現しました。

その後も岸壁等の整備は進められ、昭和46年には蒲郡埠頭マイナス10メートル岸壁1バース185メートルとマイナス5.5メートル岸壁1バース90メートルが完成供用開始され、昭和54年に蒲郡埠頭マイナス7.5メートル5号岸壁、マイナス5.5メートル6号岸壁が、昭和56年には蒲郡埠頭マイナス7.5メートル8号岸壁、マイナス5.5メートル7号岸壁、昭和57年には蒲郡埠頭マイナス5.5メートル2号岸壁2バースが、昭和60年には蒲郡埠頭マイナス10メートルの耐震岸壁がそれぞれ供用開始されました。そして、昨年度、待望のマイナス11メートル岸壁が一部供用開始され、現在に至っております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 今、御答弁にありました、さかのぼってみれば1635年、犬飼港から始まったということで歴史あるすばらしい蒲郡の港だということを感じているところで

す。

では、順次質問していきます。

イとして、事業内容についてです。

開港50周年の事業の内容についてお尋ねいたします。

◎大場昭佳建設部長 蒲郡開港50周年記念事業の内容につきまして御答弁申し上げます。

まず、平成28年9月21日水曜日に蒲郡開港50周年記念式典を開催し、これを皮切りにさまざまなイベント等を開催してまいります。

10月1日土曜日、2日日曜日には、みなとオアシスがまごおり、竹島埠頭ですが、第9回みなとオアシスSea級グルメ全国大会inがまごおりを開催し、三谷水産高等学校の御厚意により、海洋実習船愛知丸の一般公開等も行われる予定でございます。

さらに、こちらは50周年記念事業ではございませんが、同じく10月1日に、誘致活動が実りクルーズ客船「ばしふいっくびいなす」が蒲郡埠頭11号岸壁に初寄港していただけます。事前募集による船内見学も実施する予定でありますので、その雄大かつ美しい姿をぜひごらんいただければと思っております。

10月13日木曜日から17日月曜日には、帆船「日本丸」が蒲郡埠頭8号岸壁に入港し、13日には入港記念式典を開催いたします。15日土曜日に実習生が一生懸命帆船の命ともいえるマストを張る姿をごらんいただけるセイルドリル、16日日曜日に

は船内の一般公開を実施し、17日には、別れの儀礼でもあります登檣令を実施していただく予定です。15日から17日につきましては、埠頭用地におけるイベントとして、Sea級グルメ等の飲食ブース、官公庁関係のPRブース、「日本丸」グッズ販売及びオフィシャルブースを設ける予定です。また、現地イベントについても現在調整中でございます。

また、「日本丸」寄港に合わせ、小型帆船「みらいへ」も寄港します。「みらいへ」につきましては、15日土曜日及び16日日曜日で一般公開及び体験航海を予定しております。体験航海につきましては、事前募集による抽せんになると思います。よろしくお願いいたします。

◆新実祥悟議員 では、ウとして、今後の方針についてです。

開港50周年をきっかけとした今後の方針についてお尋ねいたします。

◎大場昭佳建設部長 今まで、蒲郡港は自動車や木材などの物流港としての港でございました。しかし、今回の開港50周年記念にクルーズ客船が寄港することをきっかけとしまして、今後は物流港に観光交流の役割も加味した港として発展していくことを期待しております。蒲郡港の活性化を図るため、物流、交流、その他あらゆる可能性を求めてポートセールスを行ってまいりたいと思っております。

議員の皆様方の御支援、御協力をお願いいたします。また、さまざまな情報がありましたら御提供いただきますようよろしくお願いいたします。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 ありがとうございます。

では、(3)Sea級グルメについてです。

先ほど、少し御答弁にありましたが、順次お尋ねします。

アとしまして、みなとオアシスの概要についてです。Sea級グルメの実施予定場所であるみなとオアシスの概要について伺います。

◎大場昭佳建設部長 みなとオアシスは、港を核として地域の特色を生かしたにぎわいの創出や観光の拠点づくりなど地域の活性化を目的として、中国地方整備局と四国地方整備局が平成15年にみなとオアシス制度を創設しました。その後、平成18年に全国展開されました。現在、全国に79オアシスがみなとオアシスとして登録されている状況でございます。

蒲郡市におきましては、平成19年4月に竹島埠頭を中心とした中部地方で初めて登録されたみなとオアシスということになります。みなとオアシスがまごおりに認定され、年間を通してにぎわいを創出するため、さまざまなイベントを実施していただいております。親子の触れ合い体験イベント「ワクワークフェスティバル」や港の潮風を感じながらジャズなどの演奏を楽しんでいただけるジャズフェスティバル、障害者の方にも利用していただけるバリアフリーポンツーンのマンボウを活用した体験型ヨットレース「ひ

と・人・ヒトヨット2デイズ大会」などを開催しております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 では、イとして、Sea級グルメの事業内容についてです。こちらお尋  
◎大場昭佳建設部長 Sea級グルメとは、全国各地のみなとオアシスの地元で水揚げされた海産物など、みなとオアシスの背後地域で地産地消される名産品、海の幸を用いてつくられ、各地で登録認定されている飲食物でございます。

Sea級グルメ全国大会を開催することで、港を核とする地域活性化を促進し、その知名度の向上と利用促進をまいります。

第9回Sea級グルメ全国大会inがまごおりの開催につきましては、全国に79カ所ありますみなとオアシスに声をかけさせていただき、海に関するものを使用した御当地グルメ「Sea級グルメ」をみなとオアシスがまごおりに呼び、2日間の投票結果によりグランプリを決めるものでございます。

日程につきましては、10月1日土曜日と2日日曜日の2日間を予定しております。蒲郡市からは、ねりえもんバーガーやメヒカリの空揚げ、ガマゴリうどんはもちろんのこと、今年度みなとオアシスがまごおりのSea級グルメとして認定いたしましたメヒコロボール、ニギス団子汁などが参加する予定でございます。また、各種ステージイベントや愛知丸の一般公開など、蒲郡開港50周年の記念事業にふさわしい港のにぎわいを創出していきたいと考えております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 ありがとうございます。

では、順次質問に移ります。

(4)ボートレース事業についてです。

この、海のまちがまごおりということで質問させていただこうと考えたときに、蒲郡の事業としてやはりボートレースというのは海というくくりの中で欠かせないものだというように思いまして、あえてこの質問をさせていただくところです。

では、アとして、ボートレース事業の状況についてです。

平成27年度売り上げ及びボートピアなどはいかが推移いたしましたか、お尋ねします。

◎小田由直ボートレース事業部長 ボートレース事業の状況につきまして、初めに平成27年度全国の売り上げ状況では、総売上額1兆422億円と前年度比104.7%と増加をし、8年ぶりに1兆円を超えております。

次に、ボートレース蒲郡の売り上げ状況につきましては、平成27年度は198日開催いたしまして、約909億円を売り上げました。こちら、日本一という記録になっております。前年度比は129.7%、1日平均売り上げは約4億5,900万円の前年度比121.9%でございました。この要因といたしましては、8月に開催いたしましたSGボートレースメモリアルと2月に開催しましたG I 東海地区選手権競走などのほか、電話投

票売り上げですとか場間場外売り上げが大幅に増加したことによるものでございます。

続いて、蒲郡の専用場外、ボートピアでございますが、こちらのほうの売り上げ状況につきましては、ボートピア川崎は1日平均売り上げ805万円で前年度比98.8%、ボートピア名古屋は1日平均売り上げ3,661万円で前年度比91.4%、そして平成27年12月24日にオープンいたしましたボートレースチケットショップミニボートピア栄、こちらのほうの1日平均売り上げは1,262万円でございます。ボートピア名古屋の売り上げが若干減少しておりますが、その要因といたしまして、ボートレースチケットショップミニボートピア栄が少なからず影響しているものというように思われますが、栄、名古屋のトータル売り上げとしましてはプラスで推移していますので、いましばらく売り上げを注視してまいりたいと考えております。

そして来週、6月21日から2年連続となりますSGレースを開催してまいります。今回開催しますグランドチャンピオンは蒲郡では24年ぶりに開催をいたします。ナイターレースでの初開催でもございますので、売り上げ目標を110億円と掲げました。それを達成するよう目指してまいりますので、多数の御来場を心よりお待ち申し上げます。

以上です。

◆新実祥悟議員 すばらしい成績というのを今お聞きいたしました。

若干、東北震災の影響でボートピア川崎、なかなか戻ってないなという部分がありますが、こちらのほうもまたしっかりとお願いしたいところです。

それから、SG、もうすぐ始まります。本当に期待しているところです。

また、それに加えて、3年連続SGがとれるといいなというように思っておりますので、そちらもよろしく願いいたします。

このボートレース事業、事業部として関連があればというように思うのですが、海の事業についての各イベントとの連携事業についてお尋ねいたします。

◎小田由直ボートレース事業部長 ボートレース蒲郡におきましては、平成27年度、先ほども申し上げましたが、198日開催いたしました。そして、年間で50万9,428人、1日平均としまして2,573人のファンの皆様に御来場いただきました。施設は完全空調で、駐車場も完備されております。レース開催日に限らず、レース非開催日の施設を有効に活用しまして、多数の市民の皆様に御利用いただければというように考えております。

今年度もレース非開催日には、さまざまなイベントを実施してまいります。今回、新たに7月30日、31日の蒲郡まつりと同じ日程でイベントを実施してまいります。このイベントは、先ほど建設部長からもお話がありましたが、東三河8市町村で開催されます海フェスタ東三河の協賛事業として実施することで、ボートレースを広くPRしま

してイメージアップを図ることを目的として実施してまいります。

イベントの内容といたしましては、各みなとオアシスと行う中部みなとオアシス観光物産展としましてSea級グルメブースなどを出展してまいります。また、水辺の安全プログラムとしまして、ブルーシー・アンド・グリーンランド財団の協力のもと、カヌー体験などの水辺の安全教室ですとか、モーターボート競走会、選手会と協調しましてペアボートの体験乗艇を行います。この事業は、海に関連した事業としまして、日本財団の助成を受けて実施してまいります。そして、31日には恒例の蒲郡まつり納涼花火大会がございます。その観覧会場としましてボートレース蒲郡を一般開放してまいります。

今後も、皆様にはボートレース蒲郡を御利用、御活用いただき、愛される、親しまれる施設として開かれたボートレース蒲郡を目指してまいりたいと考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 久しぶりに競艇場の観覧席が花火大会の観覧席になるというように伺いました。

思えば、私、30年も前の話、もっと前の話かな、蚊に刺されながらあそこで花火を見たという覚えがあるのですが、あれ以来かなというように思っております。楽しみにしております。ありがとうございます。

では、(5)として海陽ヨットハーバーの拡張についてお尋ねいたします。

ア、事業規模について。

愛知県が計画している海陽ヨットハーバー整備事業の内容についてお尋ねいたします。

◎大原義文企画部長 愛知県が所有する県営海陽ヨットハーバーについて、平成29年度に向けまして大幅な整備工事を実施し、ワールドカップなど国際大会に対応できるようにすると伺っております。総事業費は18億5,000万円、うち平成28年度に9億円を予算化しているということでございます。

工事内容といたしましては、既存のクラブハウス内の給排水設備を更新するほか、ハウスの隣接地に国際大会で欠かせない選手用控え室や医務室のほか、メディアセンターなどの入る施設を設け、さらに艇庫の改装及び浮棧橋の新設等を行うというように伺っております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 先日、海陽ヨットハーバー、ちょっと見てきたのですが大変いいところで、あそこが拡張されるというのは何となくワクワクするなというように思っております。

そういう中で、イとして、視野に入れている目標についてですが、今後、県と市でどのような取り組みを行っていくか、また市として施設の活用について、お尋ねいたします。



◎大原義文企画部長 現在のところ、平成29年8月に2人乗りヨットの国際大会でありますテーザー級世界選手権大会の開催が決まっているほか、2人乗りの49er級世界選手権の内定をいただいているところでございます。

このたびの大幅な施設整備により会場の魅力も大いに増すため、愛知県と一緒にさらなる大規模国際大会の誘致に努めてまいりたいと考えております。

また、大会以外の施設の活用については、海のまちがまごおりとしまして海の生き物と親しむイベント等に活用させていただくほか、通常時におきましても市が主催する事業等の会場として活用させていただきたいというように考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 ぜひ、県の施設であっても蒲郡にあるわけですので有効に使っていただければありがたいなというように思います。

では次、(6)メタンハイドレート試験掘削についてお尋ねいたします。

ア、現在の状況についてです。

経済産業省が平成13年7月に我が国におけるメタンハイドレート開発計画を発表し、日本周辺海域に存在する相当量のメタンハイドレートについて将来の重要なエネルギー資源と位置づけ、段階的な技術開発を進めるとしてから、きょうまで15年が経過いたしました。

その後、幾度か掘削、実証実験を渥美半島の海域において実施してきていると記憶していますが、現在の進捗状況についてお尋ねいたします。

◎大原義文企画部長 メタンハイドレート開発計画の進捗でございますが、東部南海トラフ海域調査等を目的としたフェーズ1におきまして、平成13年から平成18年までの6年間の計画が、平成20年まで2年延長されました。

続いて、実海域における海洋産出試験の実施を目的としましたフェーズ2におきまして、当初平成19年から平成23年までの5年間の計画としておりましたが、平成21年から27年までとこちらも2年延長と、それぞれフェーズ1、2とも2年ずつ延長されてきております。

最終的な技術の整備並びに経済性の検討を目的としましたフェーズ3について、当初平成24年からの5年間、平成28年までの実施だったところでございますが、2年短縮しまして平成28年から平成30年までの3年間で実施する予定ということでございます。

現在は、このフェーズ3における第2回海洋産出試験の実施準備に着手しております。渥美半島沖において地球深部探査船「ちきゅう」が試験前の事前準備として井戸を掘る作業を実施しているということでございます。本作業を6月中旬までに終えまして、来年2月以降に第2回海洋産出試験を実施する予定と伺っております。

以上です。

◆新実祥悟議員 実は、きょうの中日新聞にその実施に向けた準備作業というのは

終了したと、きのうで終了したということでしたか、でも無事に終了したということでしたのでよかったなというように思っています。実際に試掘を始めるのが来年2月ごろからというようにも書いてありました。

このメタンハイドレートの件なのですが、イとして、蒲郡とのかかわりについてです。

6月中旬まで実施する海洋産出試験の準備作業について、蒲郡がどのようにかかわってきたか、伺います。

◎大原義文企画部長 これまでの経緯は、先ほど申し上げたフェーズ1の期間におきまして、平成13年と平成18年にそれぞれ実施しました渥美半島沖での調査掘削におきまして、資機材・人材運搬の支援基地として蒲郡地区を利用させていただきました。また、フェーズ2の期間となる平成25年におきましては、第1回海洋産出試験において、同じく渥美半島沖において実施いたしましたが、この際にも資機材・人材運搬を担う支援基地として、この地区、蒲郡地区を利用させていただきました。

今回、6月中旬まで実施する予定の海洋産出試験の準備作業につきましては、沖合のちきゅう号が井戸を掘削する際に使用しますドリルなどの資機材運搬を担当する会社が、三河港蒲郡地区の岸壁より専用船による資機材の運搬を実施しているほか、本件に従事します職員の常駐基地として、本市の第3セクターになります蒲郡港営施設株式会社の建物の空き室を利用させていただいております。

また、本調査の総合的なオペレーションを担当する会社が浜町地内のテナントに同居し、オペレーション作業に従事されています。

陸域とちきゅう号の間の作業員の運搬を担当するヘリの会社がございまして、こちら蒲郡地区の13号野積み場をヘリポートとして利用させていただいております。

また、あわせて同地区に作業員の常駐基地も設置をしております。陸域より運搬します資機材については、蒲郡地区の荷さばき地や浜町にあります海運会社の倉庫において保管をしている状況でございます。

こういったことを踏まえますと、三河港蒲郡地区がこの国家プロジェクトの屋台骨を担っているという状況であるというように考えております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 フェーズ3というのは商業化に向けた掘削試験だというように聞いておりますので、大変期待しているところです。

では、ウとして、将来の産業創出について、順次伺います。

メタンハイドレート関連企業への誘致活動というのはこれまで行っているところでしょうか。

◎大原義文企画部長 現在のところ、浜町への企業誘致活動は行っておりますが、メタンハイドレート関連企業へ特化した誘致活動というものは行っておりません。しかし、来年予定されておりますちきゅう号の試験掘削には大きな期待を持っております。

今後、メタンハイドレートの商業化への道筋が見えてくれば、関連企業に対して企業

誘致活動を行っていききたいというようには考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 メタンハイドレート関連の東証1部の企業だけでも大体15社ぐらいあるというように聞いております。もちろん、エネルギー関連となればもっとたくさんになるわけですが、ぜひそういったことで、この蒲郡を紹介するだけでもいいのかなというように思いますので、伺っていただければと思います。

次に、港を使うことにより雇用促進が可能だと思えますが、市としてはどのように考えていますか、伺います。

◎大原義文企画部長 港が活用されることによりまして、多くの雇用が生み出されることは新実議員の御意見のとおりであると思えます。

市としましては、マイナス11メートル岸壁の一部供用も開始されましたが、雇用を生み出すためにも連続3バースを完成させまして港湾の利用を拡大することが必要不可欠であるため、今まで以上にポートセールスを行ってまいりたいと考えております。

また、関連企業に関しましては、各企業の意向を確認しながら誘致を行い、雇用確保に努めていきたいと考えております。

以上です。

◆新実祥悟議員 ありがとうございます。

港を使うことによって雇用促進が可能になるというように思っているわけですが、海洋資源エネルギー関連企業を誘致する場合には、浜町の今ある土地を再区画整理する必要もあるのではないかなというように思っているところです。これは、私がここで勝手に述べているだけということにさせてもらおうと思えます。こちらのほうも、実際、あいている土地もあるというように伺っていますので、御検討いただければと思います。

以上、海のまちがまごおりの事業についてお尋ねいたしました。本年度は、これまでになく海に関するイベントが重なっています。観光、イベント、娯楽だけでなく、産業という面で、日本はもちろん世界にアピールできる機会を得たと思っています。市長初め職員の皆様、大変ですけれども頑張ってください。

2、蒲郡の道路建設状況について、質問を進めさせていただきます。

以前、東京で野田聖子代議士と面談する機会を得ました。その際、子育てについての質問に対する代議士の回答の第一声は、道路ですというものでした。保育所、病院、買い物、全て道路あってこそその子育てであると、そういう回答でして、なるほどと得心したものでした。もちろん、道路あってこそその広域連携とも言えます。

そこで、順次お尋ねいたします。

(1)国道23号バイパスについてです。

ア、進捗状況と完成予想についてですが、大場議員への御答弁で五井トンネル工

事、国坂トンネル発注済み、為当インターチェンジ付近の工事が始まったというものがありましたので、この点については割愛させていただきます。

(2)国道247号バイパスについてです。

アとして、進捗状況と全線開通予想についてですが、こちらは大場議員への御答弁がありまして、来年度中には完成予定だというように伺いました。

ですから、次、イとして、4車線化についてです。こちらのほうも大場議員への御答弁があり、鹿島バイパスが4車線化の視野に入っているという御答弁でした。ですから、その点については了解させていただきます。

ウとして、鹿島バイパスの交通安全対策についてですが、一部、大場議員への御答弁がありましたので多少割愛させていただきますが、それ以外のところをちょっとお尋ねいたします。

まず、ことしも塩津地区、鹿島地区から信号設置の要望が出ていると伺いますが、いかがでしょうか。

◎大場昭佳建設部長 毎年行われておりますポートレース蒲郡周辺地区総代等懇談会におきまして、毎年要望が出されております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 では、この国道247号バイパスの全線開通時期が見えてきたという御答弁があったところですが、実際、時間がそれほど残されていない中、まだ信号設置場所が決まっていません。大型商業施設の地権者様から、道路分として寄附をいただかなければならないという状況であるということもあります。

ところで、その寄附の確約というのとれているかどうか、お尋ねいたします。

◎大場昭佳建設部長 現在も大型商業店舗2業者との調整を引き続き行っておりまして、まだ合意には達しておりません。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 今わかっているだけでも道幅9メートルとして、面積にすると1,800坪に相当するのです。それ以外の部分はまだわかりませんので何とも言えませんが、こういった非常にたくさんの土地を寄附いただかなければならないという状況で、実際にどうなるかわからないというのは大変不安だなというように思うのです。

そこで、こういったものの寄附の仮契約というのはいできないものか、お尋ねいたします。

◎大場昭佳建設部長 寄附道路につきましては、寄附を受ける道路の構造を市と協議し、その基準にあった道路をつくっていただき、それから寄附を受け、その上で道路管理者が、その後、維持管理していくという流れでございます。

現段階では仮契約というようなものはちょっとできないということでございます。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 カインズさん、クラスポさんには、こういったことをお願いしていかな

ければならないという状況で、本当に大変申しわけないなというように思っているところですが、御協力をいただけるよう心からお願いしたいというように思っております。

ところで、鹿島町の浜田・長田地区というのは、今、これから新しい道路をつくろうかという、そういったところなのですが、市街化区域で都市計画区域でもあります。都市計画区域ということは、都市計画税も課されているわけです。

ところが、その都市計画税の根拠法というのは都市計画法だというように聞いていますが、都市計画法の目的は何か、お尋ねいたします。

○喚田孝博議長 建設部長。

◎大場昭佳建設部長 市民が健康で文化的な生活と都市活動が十分達成できるように、都市の基礎的な施設を計画し、土地利用に適正な制限を課すことによって合理的な都市空間を形成するということにございます。

以上です。

◆新実祥悟議員 それでお尋ねいたします。今の鹿島町浜田・長田区域の状況というのは全く開発されていないような、手の入っていないような状況なのですが、これは法に合致していると思えますか。

◎大場昭佳建設部長 都市基盤については、まだまだおくられている部分がございます。

都市計画事業は、市街化区域内で市民の多くが買い物、通勤等で利用される中心市街地や幹線道路の整備や中心部以外の街路事業等一体として総合的に整備し、開発し及び保全しようとするために実施されるものでございます。

この地区におきましても、過去には区画整理事業ですとか開発事業等のお話があり、検討したときもございます。今回の道路計画も、地域の方々の御意見を伺いながら進めさせていただきたいと思っておりますので、御理解のほどよろしくお願ひしたいと思っております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 ちょっと意地悪な質問だったかと思いますが、いずれにしても時間がありません。市役所の事業として、私は道路整備すべきではないかなというように思うわけです。少なくとも、市の土地の部分、市の土地もあるわけですので、そこだけでも進めるべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

◎大場昭佳建設部長 現在、一生懸命大型店舗2業者との話し合いも進めさせていただいております。早急に解決するように努力しますので、もうしばらくお待ちいただきたいと思っております。

以上です。

◆新実祥悟議員 大場議員のところの答弁で、今年度中にまとめたいというものがありました。ですから、それを信じまして、しばらく待たせていただきます。

ただ、本当にこれ頑張っていたきたいと思えます。よろしくお願ひします。ありがと

うございます。

次、(3)大塚金野線について。

ア、海陽町地内の道路つけかえ状況について順次お尋ねいたしますが、工事の概要について、御答弁をお願いします。

◎大場昭佳建設部長 海陽町地内の道路つけかえにつきましては、現在、愛知県三河港務所が主体となりまして、既存の臨港道路海陽1号線の改良工事及び新設であります臨港道路海陽3号線の築造工事を実施しております。

臨港道路海陽1号線は、ラグーナゲートブリッジ北側の丁字交差点から国道23号大塚駅南交差点に至る区間において、現在の緩やかなカーブの形状を丁字交差点の形状に改良しております。

臨港道路海陽3号線は、この丁字交差点から海陽学園前の南北の市道までの区間を直線で結ぶ道路であり、現在順調に工事を行っております。

工事の進捗状況につきましては、平成28年2月から下水道や水道管などの占用物件の移設、電線共同溝の敷設がえを施工しながら、さらに現状の車や歩行者の交通処理を確保した上で、臨港道路の改良工事と新設工事を一斉に実施しております。

工事の完成は、平成28年10月下旬の供用開始を予定しております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 では、イとして、橋脚設置についてです。

臨港道路のつけかえ工事は順調に進んでいるというように伺いました。

では、海陽町と国道23号、現道を結ぶ橋脚設置工事の計画は進んでいるか、伺います。

◎大場昭佳建設部長 臨港道路海陽3号線の海を渡る区間につきましては、今回整備しています臨港道路海陽3号線と市道海陽町1号線との交差点から北側に向かい、国道23号の大塚鎌倉交差点を結ぶ区間であり、三河港港湾計画に位置づけられております。

事業主体であります愛知県に確認したところ、平成27年度に愛知県が詳細設計委託業務を実施しました。臨港道路海陽3号線の海上区間約120メートルのうち、水路として必要な区間には3連のボックスカルバートを約20メートル設置します。その他の区間約100メートルは、埋め立て工法による整備計画であり、標準幅員27メートル、4車線の道路を築造する計画であると伺っております。

また、スケジュールにつきましては、平成28年度に公有水面埋立免許の申請を行い、平成29年度に工事を着手する予定であると伺っております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 それでは、ウとして、全線事業化についてです。

県事業では小坂井バイパスから国道151号へつながっているのですけれども、国道1号をまたぐ橋脚の調査費がついたというように聞いております。調査費がついた

ということは、近々事業化されるということだと承知しているところですが、早ければ2年後、工事が始まるのではないかと考えているところでは、この大塚金野線なのですが、この事業化というのはどのようなことをちょっとお尋ねしたいと思うのですが、先日、大場康議議員それから鈴木基夫議員もお尋ねしていたところですが、私からも再度お尋ねいたします。

◎大場昭佳建設部長 今までの調査費等につきましては、平成26年度にルート検討が行われ、平成27年度にもその修正検討が実施されたと聞いております。今年度につきましては調査費が計上されているというような情報はいただいておりますけれども、具体的には聞いておりません。

現時点では、新実祥悟議員おっしゃられた見通しというのはまだこちらのほうとしては聞いておりません。事業化がまだ図られていないという情報になっております。

しかしながら、国道23号蒲郡バイパスの全線開通も視野に入ってくる中で、大塚金野線は(仮称)金野インターチェンジから蒲郡に入る重要なアクセス道路でありますので、愛知県に整備促進をこれからも重々お願いしていきたくて思っております。よろしく申し上げます。

◆新実祥悟議員 ぜひ、要請活動を続けていただきますようお願いいたします。

では次、(4)国道473号バイパスについてです。

アとして、現在の進捗状況についてですが、鎌田議員への御答弁がありましたので、新東名岡崎東インターチェンジ、この付近の整備が終わったということで了解させていただきます。

イとして、岡崎市との連携についてですが、鎌田議員への御答弁がこれもありました。岡崎市役所で5月11日に意見交換会を行ったということでしたので、これも割愛させていただきます。

ところで、この新東名岡崎東インターチェンジへ結ぶ道路というものを、西尾市も幸田町も縦線として建設を求めているというように聞いております。これは、議長から聞いたわけなのですが、そうすると県の視点から見ますと、県事業のとり合いになってしまうのではないかなというように思っているのですが、西尾市とか幸田町との調整というのは図っているかどうか、お尋ねいたします。

◎大場昭佳建設部長 こちらとしましては、一応そのような話はお伺いしていないという状況でございます。

しかし、国道473号整備促進協議会としては強く要望していくことが重要であると、こちらも考えております。ですので、そちらの幸田町ですとかそういったところの周りのところにも調整を図っていきたくて考えております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 西尾市とか幸田町は、蒲郡市と兄弟町だというように認識しているわけなのですが、そうした関連のあるところと見苦しいどろどろとしたとり合いが起こる

ことのないように、ぜひ情報を共有しながら進めていただければというように思います。

それでは、ウとして、ルート決定についてですが、こういった話を進めていくにもルート決定が必要だと思うのですが、この点についてはどのようになっていますか。

◎大場昭佳建設部長 ルート決定ということですが、まずは愛知県に対しまして要望の資料づくりを行っていきたいと考えております。その上で、都市計画決定に向けて、これも事業化もちょっとにらんだということですが、都市計画決定に向けて強く要望を行っていきという方向でいきたいと思っております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 ありがとうございます。

ぜひ、これがうまく調整できるようにお願いいたします。

では、5として、名浜道路についてお尋ねいたします。

以前、鈴木基夫議員がこの名浜道路のことを蒲郡セントレア線だというように言っていました、まさにそのとおりだというように思っております。少なくとも、蒲郡市においてはそういう改称、呼称で使わせてもらってもいいのではないかなというように思っています。

では、アとして、要請活動についてお尋ねするわけですが、これも鎌田議員への御答弁がありました。名浜道路推進協議会を中心に国・県へ要望、要請を行っているということでした。それで、この点については割愛させていただきます。

次もそうです。イとして、問題点についてですが、こちらも鎌田議員への御答弁がありました、あえてお尋ねいたします。何か御所感があればお願いいたします。

◎大場昭佳建設部長 名豊道路が完成すれば、次は名浜道路という考え方も一部では意見が出ております。これは平成4年度から名浜道路推進協議会が発足しまして、もう既に二十数年たっておりますが、なかなか遅々として進捗しない状況でございます。ですので、何とか一歩でも前進するような形で要望活動等を行っていきたいと考えております。

以上でございます。

◆新実祥悟議員 問題点というのはたくさんあるのかなというように思っています。

例えば、今、この要望活動を続けている中で、残念ながら西知多道路が先に事業化されたということがあります。もちろん、この名浜道路をつくっていくに当たっては、橋脚部を衣浦港の拡張した部分に建てるというような話も、実はこれも碧南市の議長から聞いた話なのですけれども、というようにも聞いております。蒲郡港としては、蒲郡港の拡張をお願いしているところを、衣浦港でも拡張ということがあって、なおかつそこに橋脚部が来るという話ですので、これは蒲郡港ばかりではなくて衣浦港も一緒になって応援していかなければいけないのかなというように、そのようにも思ったわけです。こういったところもあるなと感じて、要望活動はなかなかうまく実現していかないと



いうのは物理的な部分もあるのかなというように思いました。

以上、蒲郡の道路建設状況についてお尋ねしました。

市長初め当局の皆様が一生懸命頑張っていることは承知しています。しかし、残念ながら愛知県の中でも蒲郡市が最後にされているように思います。先日、鎌田議員も言われていましたとおり、この蒲郡市というのは陸の孤島だと、そのような状況にあったというように、そのようなお話がありました。ただ、その陸の孤島が、では陸地になったのかというと、残念ながらまだまだなっていないと、これが現実だというように思っています。

西高東低と言われて久しいわけなのですが、東三河が後回しにされているというようにも思います。現実、このようなことばかりだと、東三河の議員の皆様が見ているわけなのです。結果として、東三河市議会議長会の中ではどのような話が出たかというと、力を持つ、力を持ちたいんだ、そのためには東三河広域連合を一步前進させて東三河プラスアルファで政令指定都市を目指そう、こういう話まで出てくるわけなのです。

こうしたときに、これからいろいろな問題も力を持てば解決するのではないかとこのように思って、このような話になっているわけなのですが、ことしの東三河広域連合議会の動きが楽しみですということをお述べさせていただいて、私の一般質問を終了させていただきます。ありがとうございます。